

研究結果

新聞における日本語由来新語の使用状況に関する調査研究

本研究は中国で最も発行部数の多い『人民日報』を対象に調査し、1978年中国の改革開放政策実施以降、初めて『人民日報』に出現した日本語由来の新語を統計した上で、それらの属性と特徴などを考察したものである。

本研究では『人民日報』を調べることによって146語の新語が確認されたが、その一語一語について初出年代、使用例数、属する領域、意味の変化があるか否かなどの角度から考察を行った。

それらの新語は毎年均等に用いられるわけではなく、一年に数語が現れる年が普通であるが、一語も見られない年もある。また、半数近くの語が70年代の後半か80年代に出現していることは興味深い。例えば、1979年では「研修生、運営、視点、刺身、年功序列」などの語が現れたが、2004年では「風呂」、2007年では「達人」とそれぞれ1語しか現れていなかった。このことから日本語由来新語の中国語への流入はわりあい緩やかに行われており、特に80年代と比べて、近年は借用のテンポが遅くなったことが分かる。

日本語由来の新語は政治、経済、法律など多くの分野にわたって見出されるが、特に経済や社会生活などに関わる語が多く見られる。例えば、経済類では「低迷、特売、募金、不良債権」など見られ、社会生活類では「料理、空巢、弁当、民宿、少子化」などあり、体育・芸能類では「完敗、友情出演」などが挙げられる。中国の改革開放政策実施後、日本の映画、ドラマ、漫画及びアニメなどが中国に多く入ったため、中国語ではそのような語が多く借用されたのもいうまでもないことであろう。

日本語由来の新語は中国語に借用された後、意味に変化の見られるものとそれほど見られないものがある。「安楽死、暴走族、過労死、就学生、融資、少子化、外食、完敗」などの語はその意味が日本語とほとんど変わらないが、「民宿、写真」などは意味に変化が見られる。

本研究では主に『人民日報』に使用されている日本語由来の新語について調査したが、『人民日報』に出現してはいないが、すでに他の新聞、雑誌、テレビ番組などに頻繁に登場しているものも少なくない。それらについては今後引き続き考察する必要があると考える。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「新聞における日本語由来新語の使用状況に関する研究」, 譙燕, 『2008年上海外国語大学日本学国際フォーラム』, 2008. 6, 上海外国語大学にて

「日本語由来新語に関する一考察」(発表予定), 譙燕, 『上海外国語大学日本学国際シンポジウム』, 2009. 6, 上海外国語大学にて

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「新聞における日本語由来新語の使用状況に関する調査研究」, 譙燕, 『日本学研究—2008年上海外国語大学日本学国際論壇論文集』, 2008. 12

「日本語由来新語に関する一考察」(掲載予定), 譙燕, 『上海外国語大学日本学国際シンポジウム論文集』, 2009. 12

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

『日源新詞研究』(出版予定), 譙燕、施建軍編, 学苑出版社, 2011. 3